

カンキツウイルス病、ウイロイド病

○ 被害と発生生態

カンキツに発生する主なウイルス病及びウイロイド病は、温州萎縮病、ステムピットティング病、接ぎ木部異常病、エクソコーティス病、カンキツウイロイド病の5種類で、発病した樹には葉や果実の奇形、樹の萎縮や樹勢低下、果実の小玉化や収量の減少など様々な症状が現れる。

カンキツは接ぎ木により増殖するため、感染樹に接ぎ木したり、感染樹から採取した穂木を育苗や高接ぎに用いると、ウイルス病及びウイロイド病は確実に伝染する。また、ステムピットティング病はアブラムシによる虫媒伝染、温州萎縮病は土壌伝染、エクソコーティス病やウイロイド病は剪定鋏やノコギリなど農器具に付着した汁液によっても伝染する。

ステムピットティング病に対する抵抗性は品種によって大きく異なり、「宮内イヨ」、「アマナツ」、「ユズ」、「ブンタン」は罹病性で被害が発生しやすいが、「ウンシュウ」、「不知火」、山口県オリジナル品種である「せとみ」、「南津海」は強く、問題とならない。

○ 防除方法

(ア) 耕種・物理的防除

- ・育苗や高接ぎには、健全な母樹から採取した穂木を用いることが最も重要である。
- ・結果量の調節、有機質の補給などにより、樹勢の増強を図る。

(イ) 薬剤防除

- ・ウイルス病やウイロイド病に効果のある薬剤は、現在のところない。

病気の種類ごとの特徴と防除法については、表を参照する。



カンキツウイロイド病（ウンシュウ）
台木部の剥皮症状



ステムピットティング病（宮内イヨ）
左：健全樹、右：発病樹



温州萎縮病（ウンシュウ）



接ぎ木部異常病（太田ポンカン）
接ぎ木部の褐変症状（右は拡大）

表 カンキツの主要なウイルス病、ウイロイド病と防除対策

種 類 (ウイルス・ウイロイド名)	主な罹病品種	伝染方法	防除対策
ステムピッキング病 (カンキツリステザウイルス:CTV)	ハッサク、ブンタン類、伊予柑、ユズ、オレンジ類、タンゼロ類、アマナツ、ナツミカン等	虫媒伝染(アブラムシ) 接木伝染	①健全母樹からの採穂 ②弱毒ウイルス接種苗の利用 ③アブラムシ類の防除 ④発病樹への高接更新を避ける ⑤着果数の抑制
接木部異常病 (アップルステムグルーベングウイルス:ASGV)	カラタチ台、シトレンジ台の全てのカンキツ品種	接木伝染	①健全母樹からの採穂 ②ユズ、シクワシャーの根接ぎ
温州萎縮病 (温州萎縮ウイルス:SDV) ナツカン萎縮病 (ナツカン萎縮ウイルス:NDV)	温州萎縮病:温州ミカン等 ナツカン萎縮病:ナツミカン、アマナツ	土壌伝染 接木伝染	①健全母樹からの採穂 ②発病樹の伐採、抜根、土壌消毒 ③汚染土壌の入れ替え ④発病園にはカンキツ類を植えない ⑤サンゴジュを防風樹としない
エクソコーティス病 (カンキツエクソコーティスウイロイド:CEVd)	カラタチ台、シトレンジ台の全てのカンキツ品種	剪定鋏などの刃物による汁液伝染 接木伝染	①健全母樹からの採穂 ②剪定鋏の消毒(注参照) ③発病樹の伐採 注)刃物等の農器具の消毒法:塩素系漂白剤(次亜塩素酸ナトリウム含有、ハイター等)の原液~50%液を作り、この液に剪定鋏を数秒間浸漬する。浸漬後は水洗し、紙等でふき取り使用する。
カンキツウイロイド病 (カンキツウイロイド:CVd I、CVd II、CV III、CV IV)	カラタチ台、シトレンジ台の全てのカンキツ品種 その他の品種については不明な点が多い	接木伝染	